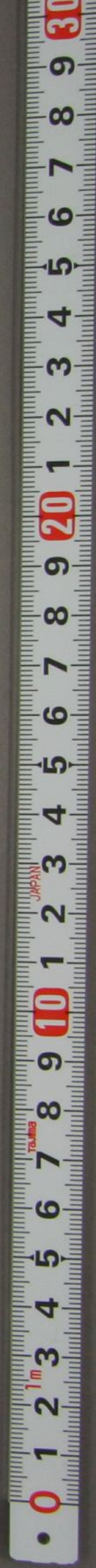


養書

一冊

2832



414
A 371

謹
テ書ヲ大臣大隈公閣下ニ奏ス

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



第一条

夫西國ノ野民固ヨリ愚ナリ今其分ヲ觀リ見ス明政
ニ一ニノ興廢ヲ妄議シ大臣ヲ役ス其重罪ヲ知ラザル
ニ非ス唯死ヲ致シテ余ヲ門下ニ待已ナリ

伏テ地制ヲ慮ルニ國中田畑ノ制法後未既漫ニ而賦税モ亦簡畧ナ
リ夫レ土去ハ國ノ本ニ而暫クモ忽ニスヘカラス因テ之ヲ正定サ
セラルニ國中ノ人民又テ其税ノ加増スルヲ病ニ竊ニ額ヲ蹙テ政
府ヲ恨ルモノ少カラス此ニ重ルニ百業ノ元理ヲ知ス故ニ萬物
税ニ熾ニ大ニ人心一ニ帰セズ然ルニ國中ノ士族任官ナキモノ多
ハ報天愛國ノ理ヲ辨ヘス自ラ啗食ヲ耳シ尚ソノ珠ノ減少ナラン
ヲ恐懼スル已ニテ又活業ヲ為スヲ耻トシ遂ニ生涯人生ノ道ヲ誤
リ勤モスレハ當時不會ノ論議ヲ企テ口ニハ報國ノ二字ヲ唱ヘ心

ニ利欲ヲ放シ妄ニ天威ヲ犯シ大臣ヲ侮リ政令ヲ誹謗シ人心ヲ
惑ハシムル者ナリ其レ僅ニ己カ便不便ヨリ起リ遂ニハ國難ノ一
端トモナル至ラバ國中ハ勿論萬邦ノ侮リ何ヲハテ之ヲ防シヤ
時至ニ悔ルト至スベカラズ然レバ速ニ之カ所置セズンバ終ス
今此ヲ所スルニ總テ此迄ノ家録其半ハヲ減シ士名ヲ廢シテ平民
ニ歸セシメ中ヨリ壯者ヲ撰ヒ之ヲ用ヒテ海陸ノ軍ヲ充テ當今撰
用ノ法ニ力ヘ減ズル處ノ半ヲ以テ國中ニ田稅ヲ赦シソノ半ハヲ
用ヒテ國中教育場ヲ設ケ明年再ヒ全録ニ廢シ尚農ノ如クニ之ヲ
用ヒ又其身ノ望ニ依テ之ヲ奧科及ヒ北海道ノ諸國ヘ遣シ之ニ桑
茶ノ二果ヲ與ヘナハ國中ノ民心大ニ厲ニ無為ノ等ヲ自ラ堅食ヲ
耻始テ活業ニ貴賤ナク悟リ手足アルモノハ皆其自食ニ易フベ
キ事ヲ為ニ至テ國內周ク報天愛國ノ人ニ而全國ノ富強立テ侍
ツ可ナリ今幸ヒニ之ヲ行ハセラレハ先ニ田稅ヲ赦スノ令施サ
レ後ニ田縣知事等ヲ以テ士族廢命仰付ケラレ度事

第二條

夫レ文字ハ地球中ニ於テ第一ノ便宜ナル者ニ而固ヨリ萬國ニ於
ケルト至モ之ヲ以テセサルハナシ然ルニ其字体文法大同小異ア
ルノニテ獨リ支那文字ノミ大ニ異ナリ國中久シク之ヲ用ヒ未
テ古ヘハ天地開闢ノ始メヨリ今ニ至ルマデ皆之ヲ以テ證徴トス
ト至モ其文字文体タルヤ便宜ノ主意ヲ難ニ失ヒ人生凡十年ヲ費
シ之ヲ學習セザレハ其道ヲ行ク能ハス今斯ニ當時ノ令文ヲ撰テ
曰ハ、令ハ固ヨリ國中一人タリトモ其旨ヲ注意セザル可カラズ
若シ之ニ違背ノ者アレバ男女ヲ問ハス皆之ニ經重ノ罪科ヲ賦セ
ルヲ然ルニ今文体ニテハ平民多ハ無學ノモノナレハ之ヲ
解讀スルモノ甚メ少シ此有學ニ便ナルノミニテ大ニ人民ノ病ム
所今ヨリ人々救サス之ヲ學ハシメテ欲セバ其歲月ノ費ヘ日用
ノ資費何ノ時ヲ待テ之ヲ贖ンマ唯人ヲシテ心カヲ苦マス已ナラ
ズ便宜ノ道ヲ以テ國力衰微ノ基トナラシメ豈歎息セザルヲ
唯晝夜伏テ願フクハ國中新聞ニ文典ヲ制定シテ此迄ノ國史及ヒ
有益ノ書ヲ假名ニテ譯シ其餘ノ書籍ハ總テ孔釋ノ遺書ヨリ小説
人情本ノ類ニ至ル迄燒盡シテ刻ヲコボケ又谷又休ヲ改メ國內通用
ノ語ハガキニ致シ唯假名ノミ發行セラレナバ人々大ニ便宜ヲ得

テ始テ開運ノ域ニ入ルヘキナリ

第三條

夫レ富國強兵ノ道ハ教ヘヨリ貴キハナシ又先ナルハナシ然レモ此迄我國ニ於テソノ罪過ヲ罰正スルノ法アリテ固ヨリ國教ノ定則ナシ久支那學在ニ行ルト余モ其道迂闊ニシテ甚々難シ之ヲ學フニ十第ヲ費サズレハ其道畧識シガマシ因テ國中ノ人毎ニ之ヲ悟トスヲ得ザルナリ其中ニ歲月資費ヲ惜マズ之ヲ學ンテ僅ニ通ズルモノハ必ス唐宋ノ未流ヲ酌ミ遂ニハ惡弊ヲ肯トシ心ヲ今弊事務ニ盡スヲ欲セス無益ノ詩文ヲ以テ人ニ奢リ甚シキニ至テ唯書ヲ以テ一己ノ弄物トナシ大ニ孔氏ノ主意ヲ誤リ庶民無意ニ屬スルヲモ知ス自ラ人道ヲソコナイ生涯齋儒ノ名ヲ免レザルモテテリ又佛敎アリト至モ固ヨリ其根源空滅ニ出テ其理ヲ辨説スルヤ巧ニ一度ヒ世ニ行ハル盛ナリ其敎ヘ後世ニ至テ漸々弊ヲ重子大ニ釋氏ノ主意ヲ失ヒ其道ヲ布クモノ總テ我國ノ

風俗ニ變シ其等拾六万八千余人ニ及ヒ從テ無益ノ堂室ヲ建テ妄リニ金銀ヲケリバメ其數二十九万六千九百ヶ所ニ至ル其道ヲ説クヤ世ニ与スナキ老男老婦ノミニ而唯敎ヘノ益ナキ己ニ非ス大ニ天性ヲ誤リ此レガ為メニ財寶ヲ費ヤス丁己ニ國力ヲ弱ムルニ至ルト謂フヘシ然ルニ我古ヘテ説クモノ多ハ此迄神守或ハ一派ノ皇學家アリ其道ヲ理解スル者大ニ無邊ニシテ人心之ニ難ク就中輕薄放欲ノ神守等ヲ見テ大ニ古代ノ事ヲ悔リ又黒任井上等ノ一端ノ怪説ヲ企テ其元ヲ神靈ニ付シ田野ノ愚婦ヲ惑ハシ・實ニ於レ多キ丁己ニアシスヤ近年洋學盛ニ行ハルヤ國家ノ洪運ナリト至ニ敎ヘハ總テ其國々ノ用便ニヨリ興設シタル者ナレバ其利萬ノ機械及ヒ手術航海杯ニ便ニ而モトヨリ我國休外國ト大ニ異ナレハ此ノ學ヲ以テ國敎トハナシ難シ如シ之ヲレテ專ラ修身ノ正定則トナサハ自然ニ人心輕薄ニ流レ利ニ依テ情ヲナシテ遂ニハ君臣父子ノ道義ヲ誤リ萬古不易ノ國體ヲ破ルニ至ル然レハ當今ニテ條ノ敎則ヲ設ケラレ國中ノ僧初守皇學家ナトヲ多ク用ニ敎導ノ任ニ仰セ付ケラレタリ故ニ各々己ガ田ニ水ヲ引無邊空滅ヲ主トシ種々ニ形容ヲナシ神前ニ向テ佛礼ヲ唱ヘ佛ニ

向テカシハ年鳴キ教場毎ニ人毎ニ其教説異ル故聞ク人毎ニ之ヲ
怪マサルモ少シ之亦教ヘトナスニ足ラハ然レハ此迄ノ萬年百
教ハ全國一般ノ洪明ナル正定斯トハナスヘカラス因テゴニ國
教改興ノ一説ヲ學ル

今日リ教ヘラシテ國中ノ人々ニ學バ使ルニ天下一小區毎ニ一
小學院ヲ設ケ貴賤貧富ヲ撰ラバ男女共ニ八歳ヨリ皆入院セ
ガルヲ許サス其期十五歳迄ヲ限ルヘシ又區内ノ廣狹ニ從ヒ教
負ヲ別ニ分派シ置クヘシ若シ病疾アル者ハ右ノ例ニアラス國
中總テ學業中ハ官省タリトモ給便スルヲ禁ス

小學院

教則

假名文字 天地 人道 國賦 國語 物品名

萬國名 算術

右ノ理解ハ畧ヲ假名ニテ記載シ之ヲ學習セシムヘシ如シハ
院ノ末々歳月期限ニ滿タズト至モ絶大ノ才能アリテ定課ヲ
終ノ者ハ當院ヨリ中學院ニ願ヒ出中學院教師ノ檢査ヲ越テ中
學院ニ進マシムヘシ庸才ノ人ハ十五歳ヲ待テ必スレモ定課
ヲ終ヘスト至モ自家ニ帰シテ各々家業ニ附セシム可シ

但シ右ノ學費ハ男女共ニ二十歳ヨリ五十歳迄ノ人視一人ニ
付一日ニ三厘シテ取テ之ニ當ル

一縣毎ニ二中學院ヲ設ケ小學院ヨリ見込ヲ以テ願出ニ依リ猶
試験ヲ越テ當院ニ入ルヲ許ス教法ハ各ソノ才能忍耐勇否ノ雙
或ハ當人ノ志望ニ從テ之ヲ學習セシムヘシ其期ハ二十歳迄ヲ
限ル

中學院

教則

萬國史学 政事学 窮理学 算学 工学

農学 算学 文章学 物品学 語学 圖

右ハ内外ノ書各ソノ課業ノ便宜ニ任セテ用ユヘシ又必スシ
モ定課終ヘズトモ能ク一業ニ成立スルモノハ院中ノ見
込ラ地テ之ヲ大学院ニ願ヒ出大学院ノ試験ヲヘテ大学院ニ
進入セシムヘシ又定課ヲ終ヘ期限ニミツル者ハ其望ニヨリ
テ判任官以下ニ任官スルヲ許ス

但シ石ノ学費ハソノ家ニ自田畑五十町以上ニハ全費ヲ出サ
シム高ハ五万金以上ニ比ス官員ハ勅任以上之ニ同シ又同家
ルトキハ一人ハ又ソノ次ニ部ス以下此例ニ效フヘシ
其家三十町以上五十町迄ハソノ費四分ノ三分ヲ出サシム高

ハ三万金以上五万金迄ヲ以テス養任官之ニ同シ

其家十五町以上三十町迄ハ四分ノ二分ヲ出サシム高ハ
一ノ金以上三万金迄ヲ以テス判任官之ニ同シ

其家十五町以下三町迄ハ四分ノ一分ヲ出サシム高ハ七方以
下二千金迄ヲ以テス

其家三町以下借地ノ者迄ハ六分ノ一分ヲ出サシム高ハ二十
金以下ヲ以テス等外ノ人之ニ同シ如シ其一分ヲ出ス能ハサル
モノニハ其區ヨリ之ヲ貸出スベシ其子成業ノ後三十歳ヨリ
四十歳迄ニ毎月之ヲ返納セシムヘシ又病疾ヲ養ヒ或ハ失命
ハモノハ右ノ例ニアラス

石出費ノ法ハ学費ノ人税ニシテ早ラシク助シカクメナ
リ

府令ニ大法院ヲ設ケ中法院ノ願出ニヨリ試験ヲ以テ之ヲ計リ
能ク其業ヲ成ヌモノハ當院ニ入ルヲ許ス爾ハ二十歳迄ヲ
限レト至モシノ志シヌハ見込ニヨリ三歳迄ヲ許ス期限ニ
ケテ其課業ニ終ヘシ者ハ各省官ニ於テ委任以上ニ出仕セシム
ヘシ自今ハ國中諸官者ニ使任セシモノハ中學校ノ院ヨリ
外ニ出仕スルヲ堅ク禁スベシ最此迄國勢老練ノ等ハ右ノ例ニ
非ス

大学院

教則

諸課 萬學

ノ理ヲ究メ之ヲ活用ニ試験スルヲ課業トナス

但シ學費ノ總テ官費ニ致シ成業ノ後十年間ニソノ給料ヨリ

之ヲ引取込納致サ人可
學所ハ此迄ノ寺院ヲ改メ用ユヘシ

總テ學院ニハ神府ヲ納メ奉ルヘシ
并ニ酒色烟草ノ類ヲ禁ス

第四條

大ニ高津ノ主タルヤ利ナリ然リト至モ國ヨリ國中ニ於テ一民ヲ
富シテ萬民ヲ病マシムハ高津之ヲ名ケテ甚高ト云ソレ甚高ノ在
ニ行ハルヤ國害之ヨリ甚々シキハナシ然ルニ明治元年ヨリ百
穀殊ニ實リ萬事變革ノ秋ト至モ國中一民ノ横行ナキハ固ヨリ
天恩ニ歸スルト至モ一ツハ國中食ニ乏ケレハナリ然ルニ當今米
價急々進ニ府下最モ是ヲ傷ムモノ多シ未タ路道ニ餓死スルヲ見
スト至モ危ッ人氣ハ食物ノ高下ニ從テ和慕ナル者ナリ今ソノ高
價ナル理ヲ尋ナルニ當府ニ於テ三井組ト唱ニ高家ヨリ府中民
食ノ產出スル地方ニ行キ其米ヲ糶ヒ得ケ之ヲ行キ府内強少
ク強盛價ナルヲ持テ之ヲ開キ天ニ人氏ヲ憐マシ利ヲ貧ボル丁草

英トイハサルヲ、如シ此等ノ惡法ヲ一テ專ラ自由ノ權ニ任
セラレバ、彼必ス外國ハ此ノ例ニ效テ、國中ノ產出ヲ莫シテ之ヲ
行フ時ハ此レ國難ノ基トナルベシ然レバ速ニ物品ニヨリテ商制
ヲ設ケラレ度ヲナリ、承粟ノ如キハ官高ニシテ可ラシカ

第五條

斯萬國各強弱ナル其理ヲ考フルニ多クハ國產ノ多寡行高ノ大
小ニ因テナリ、知ルヘシ然レニ我國ノ產物ヲ以テ各國ニ賣フニ
茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、茶ニハ、
其產出スル多カラズ今ヨリ大ニ開シト欲セバ先ツ政府ヨリ時
定價ニ二刻ノ直ヲアゲ之ヲ買ヒ、販リ其年ノ定價、以テ洋人ニ賣
トト申モ全ク政府ヨリニ刻ノ利ヲ以テ國內茶茶ノニ果ヲ開クモ
ハニ賣賣スルニ同シ斯ク利ヲ民ニ利ヲ施ス、三歳ニシテ人ニ國
中茶茶ノ利ヲ知リ五歳ノ後ニ至ラバ此迄ノ產出ニ十倍スルハ知
ルヘキナリ、之國ヲ富スノ先務アララスヤ

第六條

當今司法省ニ於テ時々罪ナキ人ヲ捕縛シ無益ニ時日ヲ奪ヒ罪ナ
キ後ニ津ク自家ニ歸サル、得ル此人ノ悲レ憂ル所ナリ、固ヨリ
有罪ヲ贖フニ金ヲ出サシムルノ律アレハ省吏無罪ノ人ヲ捕ヘ置
片時タリトモ妄ニ之ガ時間ヲ奪フヘカラス然レハ自今如シ無罪
ノ人ヲ留メ置ク時ハ有罪ノ例ニ效テ司法ノ罪モ亦贖ヒ金ヲ出
サセ被度ナリ

第七條

今國中日ニ開化ニ進歩スト至モ未タ、中ニ此習ナキト云ベカラ
ズ、固ヨリ開化ノ廣狭ハ遊民ノ多少ヲ以テ知ル可ナリ、然レバ此
ノ易詔家物、擬テ掃リ管絃ノ類ニ至ル迄總テ廢セラレ度ナリ、此
等業ハ自身ノ爲トラス、大ニ國中ノ婦女ヲ惑シ、ソノ時日ヲ失ナ
ハレム、一ニ忘ルヘキナリ

第

葬祭ハ國中スルテ神法ニ一定セラレ其儀式ハ至テ町畧ナルヲ匪
シノ禮ハ重クテ期ヲ絶フスヘシ葬祭ニハ神前へ給スルノ外
飲酒スルヲ禁ス之レ其敬惜ヲ破レバナリ

第九條

夫レ國中ノ人跡一定ナラサレテ今ノ如キハアラガリ固ヨリ
國事改革ノ秋ニシテ之ヲ人々ノ便ニ任セラレ實ニ寛容ナル
街所置トハ至モ各國中ニ於テ如ク種種ナル風俗ハ稀ナルヘシ
レハ速ニ一定サセラレ度ナリ

第十條

金銀ハ此レ世の中ノ萬物ヲ輸送スルノ好品ニシテ多々益々貴キ
モノナリ然レハ前世ハ實購リテ欲セズ金銀ヲ以テ物産ニ附造

スル丁甚々少シ故ニ金銀ノ産出少シト至モ之ヲ貨幣ノミニ制ス
ルナリ因テ國中高物ヲ輸通スルニ貨幣ノミニテ金銀ノ位職ヲ失
ノ不然ニ後世人大ニ驕リニ長シテ無益ノ弄品ニ至ル迄金銀ヲ
以テ之ヲ藏リトナシ冗ソ僕婢ニ至ル迄僅ニ給料ヲ仰ヒテ其半ハ
其物ニ費ヤサンヲ欲ス此今世ノ人情ナリ故ニ金銀ニ至テハ輸通
ノ便ヲ得ス一端紙幣ヲ以テ之ヲ助ケ其弊益々盛ニシテ貨幣ノ後
ナリ已ニ近世ハ紙幣ノ三行ナハレ漸ク新貨幣僅ニ發行サセシ
、金ノ本々國中ニミタザルナリ固ヨリ近世ハ金銀ノハタラキ
海外ニ及フト至モ今ノ金銀ノ産出前ニ比レハ倍ナルヘシ何
ハ外國ヘノ輸送ラニマ無益ノ器具ニ附造スルガ故ナリ然レハ政
府トモ海外ノ金カヲ借ラサレバ事ヲ圖造スルニ足ス不才遂ニ
ハ負財ヲナスニ至レリ其負財ヲナス自國ノタカカハ知ス伏テ
慮ルニ今海外ニ負財アルハ猶人ニ疾病アルガ如シタトヒ隣家ニ
事アルト至モ心ノマニ歩行スルラヘガルナリ然レハ速ニ之ヲ
逐遠センニハ如ス因テ之ヲ為サシニハ國中賣賤ナク醫具機械ハ
附造スルノ外ハ金銀具或ハ附造物ニ至ル迄之ヲ禁シ其品ノ小
係ラズ所制ナク其品ヲ以テ之ヲ買ヒ掲ケ若シ違背シテ金銀附造

ラ賤ハ奇ノハ其具ノ金銀ニ五倍ノ金銀ヲ以テソノ罪ヲツ
グナハ使石ノ物品ニ所造ノ金銀ヲ貨幣ニ制シ之ヲ以テ負タ
塞シ可シ自今漸々ニ産出ノ金銀ハ貨幣ノミニ制シ之ヲ以テ紙幣
ニ引替ヘ盡シテ再ヒ金銀ノ自由ヲ民ニ許シテ可リ之國中ノ人々
ヲシテ自國ニ報ゼ使ルノ急務ニ非スヤ

第十一條

人ノ常ニ憂ル疴口ハ病名ヨリ甚タレハナシ然レニ常今洋漢カ
ノ醫共ニ大概ハ輕キ無仁ニシテ唯利欲ヲ主トシテ治療スル故一
ニ藥品ヲモ撰ハズ妄リニ高價藥ナド唱ヘ又ハソノ療謝ノ多
ニヨリ庭速ノ分ケヲナス者ナレバ窮民杯ハソノ父母ノ病痛ヲモ
心ノマニニ治療ヲトゲス大ニ人命ヲ誤ルモノチアカラス然レハ
之ヲ救フノ法方ナカルヘカラス今是ガ法ヲ為ニハ國中家毎ニ三
鶏ヲ養ハレメ一鶏ニ付キ一日ニ一厘ノ稅ヲ賦セシメ之ヲ以テ
藥費ニ當ヘシメ一小学院ニ或ニ三名ヲ置ヘキナリ

第十一條

國中總テ人身ニ害ナル食品或ハ無益ノ職業ニハ其稅三倍セラレ
度

- 但シ 女席屋 引子茶屋 弄物屋 幼弓屋 小鳥屋 酒屋 烟草屋
- 石ハ大畧ヲ記ス

第十三條

國中ニ於テ棋花沱茶ノ湯等ハ固ヨリ控繁ノモノナレバ之ヲ六十
歳以下ニハ許サバル事ナリ

第十四條

府下ニ於テ此迄ノ羅卒町共自今分ノ一ツヲ置キ二分ヲ廢セ
レ度

第十五条

文部ヲ止教部ニ附セラレ國中学院ノ府ト定メラレ度ナリ

第十六条

初メ鉄道ノ走ルナリ諸説紛々今國內ニ僅ニ開ケ最前ニ其便ヲ見
テ人々皆目ヲ洗フ曰タリ然レハ續キテ開造セズシハアラスト至
ニ未タ獨立ノ兵備調ハズト聞ク之又燒肴ノ急務ナリ然レハ今
リ五年間鉄道ヲ止メソノ費ヲ以テ士族僧等ヨリ用ユル所ノ兵練
ノ費トナスベシ如シ幸ヒニ五年ヲ越テ兵用ノ事ナキトキハ其兵
ヲ農高ノ歸セシメ再ビ鉄道ヲ興スヘシ其兵農高ニ在トモ何ノ
害ニテモ採用セラレズニ便宜ノ兵トナルヘキナリ

第十七条

夫レ我國ハ固ヨリ

天子ノ人民人民ノ政府タルヲ人々不滅

知サセラレ度ナリ

第十八条

當今天下ノ官員判仕以下多ハソノ風俗ボ旧幕ノ未至ニ效レ直キ
ヤニ見ヘケレバ竊ニ悲ザルヲ得ス唯願テクハ各々ソノ任ニ安セ
テラ廉耻ノ風ヲ加ラレ度ナリ

右之条々言上奉戾以上

長岑縣下

高岡松島



明治七年一月廿一日

大隈公閣下

